鎮静について新しい「手引き」－拙論に関連して

中野貞彦

1．経過

2018年6月、第7回日本リビングウイル研究会のシンポジウム「終末期鎮静－苦痛のない最期を迎えるために必要か」にパネラーとして参加、その時青空の会会員にアンケートをお願いし、『鎮静についてのアンケート報告』(『青空の会のつどい』No.99付録、2018.7.13）としてまとめた。

さらに、アンケート報告を整理して日本ホスピス・在宅ケア研究会の機関誌『ホスピスと在宅ケア』に投稿（2019.2.23)、査読意見が返ってきた（3.2）ので、原稿を修正し提出、「がん遺族にとっての終末期鎮静の意味」(『ホスピスと在宅ケア』vol.27, No.1（2019年5月25日発行)）が掲載された。

2．鎮静のガイドライン

査読の意見に従って投稿原稿を見直し、本アンケートの鎮静施行率44%～58%という値を導き出したので、今までの実態と比較しようと思って調べたところ、日本緩和医療学会の「苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2010年版」というものが見つかった。その中に、「文献的検討」「頻度」について、「鎮静の施行頻度を調べた多施設の前向き研究は存在しない。」という記述があり、驚いた。

3．第26回日本ホスピス・在宅ケア研究会での発表

2019年12月14,15日山梨県富士吉田市で開かれる大会に講演発表を申し込み、「採用」の通知を貰った（2019.10.7)。タイトルは同じく「がん遺族にとっての終末期鎮静の意味」とし、概要を1000字以内にまとめた（大会抄録集p.188)。

発表準備のために、パワーポイントでスライドを作っている時に、2010年のガイドラインが2018年9月に改定されていることに気付いた。作成したファイルの日付が2019.11.17なので、その頃に気付いたことになる。

4．「8年ぶりの改訂」のweb上の記事

気が付いたのは、「終末期癌患者の鎮静に8年ぶりの手引き　鎮静に新たな概念を導入」というweb上の記事がヒットしたからである。記事の著者は、瀬川博子氏（医療ジャーナリスト)、記事の日付は2019年02月18日、「看護roo!」というホームページ上であり（https://www.kango-roo.com/sn/a/view/6456)、【日経メディカルAナーシング Pick up！】の注記があるので、そこからの引用であろう。

5．記事紹介―「ガイドライン」でなく「手引き」へ―

改定のポイントを要約する。

(1)　ガイドラインでなく手引きとしたこと

苦痛緩和のための鎮静はそもそもエビデンスに乏しく、今回はエビデンスにこだわらず、現場で活用できる知識や考え方を示すことを目指した。

(2)　鎮静の定義を変えたこと

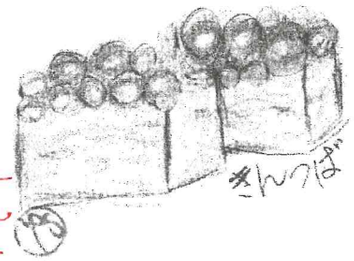
「意図的な意識の低下」を削除し、「治療抵抗性の苦痛を緩和することを目的として、鎮静薬を投与すること」とシンプルに変えた。つまり「鎮静薬を投与」したら「鎮静」ということになる。

(3)　治療抵抗性の苦痛の判断に多くのページを割いたこと

浅い・深い、間欠的・持続的の分類で4種だったものを、間欠的鎮静と持続的鎮静の2つに大きく分け、持続的鎮静はさらに調節型鎮静と持続的深い鎮静に区別した。今回新たに導入した概念の調節型鎮静はできるだけ意識を下げないで、苦痛が和らぐ程度の鎮静薬を投与することを目指すもの、とした。そのうえで、「臨床的には手を尽くしたものの患者の苦痛がなかなか緩和しない場合、まず行うべきことは、十分な緩和ケアが行われているかどうかの再検討である」と促している（とても慎重な姿勢！)。

6．意見・感想

拙論「がん遺族にとっての終末期鎮静の意味」の結論は次のようにした。



アンケートをまとめた上で到達した鎮静の意味は、終末期の堪えがたい苦痛に対して「苦痛除去のために行う緩和ケアの処置であるけれど、生命への介入の可能性のある特別な処置」であり、家族はそれを責任をもって受け止めることができるが、残される家族の負担を考えるなら、鎮静は行わないのが最善である、ということになった。

「鎮静は行わないのが最善」ということに注目して、「目の前で家族が痛がり苦痛を訴えていても、苦しみから解放してやりたいとは思わないのでしょうか」という意見をいただいたこともある。また、山梨大会の懇親会で、緩和ケアの医師から「貴方の論文には賛成できない」との意見もいただいた。また一方、拙論が鎮静について大いに問題提起をしており、よかったよ、という感想や、鎮静を多くしている所は（緩和ケアの)「手抜き」をしている、と厳しく批判するご意見も聞かせていただいた。

これらの反響を考えるとき、来世の命(現世の命の連続した延長)を信じるか否かのことも背景にあるということを考えさせられた。

手引きは、鎮静について思った以上にとても慎重で細やかであり、拙論の意図は手引きに沿うものであって、まとめた甲斐があった、と思った。

瀬川氏の記事の中に、「安楽死との区別など倫理面でも、その位置付けは国際的にも議論になっている。」との記述がある。過日NHK・TVで難病の女性がスイスに行って安楽死をする放送をたまたま見たが、その時やはり、自分の命をもっともっと大切にしてほしい、と思いながら、安楽死を肯定するような取材のスタンスに違和感を覚えた。

ガイドラインが大きく改定されたことは、鎮静は「命への介入」という側面を伴い、課題であり続ける、ということを意味すると思った。

ライアンスや尊厳や沢山の問題はあるでしょうが、その前にただ単純な「会いたい」という気持ちだけなんですけど、難しいでしょうね。しかし、いつかは実現できると信じて、たっちゃんのいのちのバトンを見守っていきたいと思います。みーがたっちゃんの気持ちの証人ですから、理解していればいいんですもんね。

（N．M　姫路市）

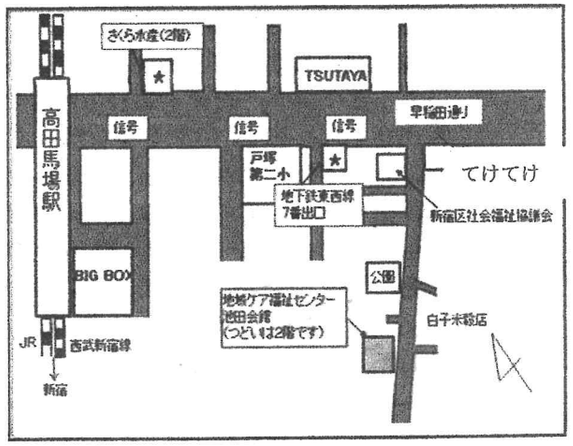
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

絵手紙コーナーⅡ　　阿部春美さん、新妻ヨシ子さん

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第106回　青空の会のつどいの案内

日時：2020年2月22日（土）
午後：2時～5時
場所：地域ケア福祉センター池田会館
（社会福祉法人かがやき会）
〒169-0075　新宿区高田馬場1-15-6
交通：(a)JR・西武新宿線高田馬場駅
JR改札に案内役が立ちます
早稲田方面徒歩約10分
(b)地下鉄東西線高田馬場駅
7番出口　徒歩5分



今回から、開始時間が
1時ではなく2時になります！

☆“がん遺族会 青空の会” ホームページをご覧ください。
http://aozoranokai.org/　「青空の会とは」「活動内容」「スケジュール」「入会・お問い合わせ」「関連情報」「会員専用」の頁があります。
☆つどい（2,5,8,11月の第4土曜日午後2時）への参加申し込みもできます。

発行者：青空の会（がん遺族会）　　2020年1月17日

連絡先：椚 計子　〒191-0062 日野市多摩平4-9-2-604　TEL/FAX 042-584-9826
中野貞彦〒198-0042 青梅市東青梅6-2-18　TEL/FAX 0428-24-3196

【次回第106回（2月22日）から、つどい開始を午後1時でなく午後2時に変更】

青空の会のつどい

第百五回　　2019年11月
No．105

お知らせ
第106回つどい（2月22日土曜）は、1時からでなく、2時から5時になります。

目　次

第105回つどいについて		…… 1
免疫療法中止後、医師とタッグ組み母の抗がん剤治療	増田りくと	…… 2
今までと違ったリレー・フォー・ライフ・ジャパン2019	中野貞彦	…… 9
田園調布のイタリアン”の望年会に参加して	木島隆司	…… 11
望年会に参加して－楽しい一日でした	高橋昌子	…… 13
楽しいおしゃべり食事会（第6回）		…… 13
春のレク　都立江戸東京たてもの園で		…… 14
四季雑感（13）アバディーン・アンガス牛の話	樫村 慶一	…… 15
絵手紙コーナーⅠ		…… 17
読書　絵本『ぼくはレモネードやさん』	O.A	…… 18
北陸便り（46）～「ナイス・エイジング」を実践できるか～	池田 功夫	…… 19
「北陸グループのつどい」報告		…… 20
かずこのエッセイ－16　私の初夢、いろいろ	椚　計子	……21
鎮静について新しい「手引き」－拙論に関連して	中野貞彦	…… 23
こころのひろば		…… 25
絵手紙コーナーⅡ		…… 31
第106回青空の会のつどい案内		…… 31